

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	倫理・政治・経済	単位	3 単
対象コース	C	コース	対象クラス	2 年	3 組
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院) 高校倫理 新訂版 (実教出版)				
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2021 (第一学習社)、ニューコンパスノート政治 経済2021 (とうほう)、高校倫理新訂版演習ノート (実教出版)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕されたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、長期休業中に課される復習プリントに取り組む事で、識を確実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査 年5回実施する。
- (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。基本的な授業態度が守られているか。
- (3) 課題 長期休業中の復習プリント、必要に応じて課す提出物。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。積極的に発言し、質問を出すことができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。

(3) 技能・表現

得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第6章 現代日本の政治 1. 政党の役割 2. 政党政治 3. 選挙制度 4. 現代民主政治の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。 ・選挙の意義を考え、選挙制度の問題点から改善方法を模索する。 ・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。 	○			○	
	5	第7章 国際政治と日本 1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と地域統合	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会とは何か、国際政治の目的が何かなど基礎的事項を理解する。 ・国際連合が設立された経緯やその目的を国際連盟との比較を通して理解する。 	○			○	
	6	3. 国際政治の動向 4. 核兵器と軍備管理・軍備縮小 5. 国際社会における日本  	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、東西対立が核兵器の開発やその後の国際関係に与えている影響を学習する。また、冷戦後の世界の動きを日本との関わりにも注意して学習する。紛争やテロ行為を客観的に考察し、それらのもたらす影響を理解することで、平和な世界の尊さとその実現のための方策を思案する。 	○		○	○	
2	7	第2編 現代の経済 第1章 経済社会と経済体制 1. 経済活動の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費のサイクルが人間社会の存立条件であることを再認識すると同時に、家計・企業・政府の三つの経済主体のそれぞれの特徴と相互関係を考察する。 	○	○		○	
	8	2. 経済主体と国民所得・国富 3. 経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> ・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活を支えるフローとストックの意味を理解する。 ・資本主義経済では景気の変動が避けられないこと、またそれに伴う問題について理解する。 	○	○		○	
	9	4. 市場経済にいたる経済体制の変容 5. 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義の仕組みとその特徴を理解する。その発展と変容を、矛盾を克服する試みとして登場した社会主義と比較しながら理解する。 ・市場機構の限界の内容と、政府の果たす役割の重要性を理解させる。 	○	○		○	
		6. 企業の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済における会社企業の役割と、特に株式会社の仕組みについて理解する。 	○			○	
	10	7. 物価の動き  	<ul style="list-style-type: none"> ・時代によって生活が変化するのに伴い、物価も変化してきたことを理解し、経済の動きを知るきっかけを掴む。実際の物価動向とその原因を考察し、まとめて発表する。 	○		○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/
	11	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき  	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○			○	○
	12	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。	○	○	○	○	○
3	1	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義 	・「第2の誕生」「マージナルマン」等を学習し、青年期特有の不安を、客観的に理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 青年期の課題 	・青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点を持つ。〈道徳教育を実施〉	○	○	○	○	○
		第2章 凶問としての自覚 第1節 田リシア思想 1 自然哲学とソフィスト 	・古代ギリシアの自然哲学の誕生を通じて、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	○	○	○	○	○
	2	2 ソクラテス	・知的探求が善く生きることと一体であるという、ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。	○	○	○	○	○
		3 プラトン	・理想主義であるイデア論の特徴を理解し、理性の役割や「哲人政治」の意義について考える。	○	○	○	○	○
		4 アリストテレス	・アリストテレスの自然観、および道徳論、国家論の、現実主義的な特徴を理解する。	○	○	○	○	○
	2	5 ヘレニズム時代の思想	・自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 田リスト教 1 旧約聖書	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ一神教の特徴を理解する。	○	○	○	○	○
		2 イエス 	・神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。	○	○	○	○	○
		3 キリスト教の誕生と展開	・イエス＝キリストの信仰の成立を学習し、パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。	○	○	○	○	○
	3	第3節 イスラーム	・キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解し、イスラーム共同体の意義を考える。	○	○	○	○	○

立

活
基

現
掛
の

な

な
知

]

]

ECK
Δ ×

—

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	倫理・政治・経済	単位	3 単
対象コース	C・一貫	コース	対象クラス	2 年	1, 2 組
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院) 高校倫理 新訂版 (実教出版)				
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2021 (第一学習社)、ニューコンパスノート政治 経済2021 (とうほう)、高校倫理新訂版演習ノート (実教出版)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕されたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、長期休業中に課される復習プリントに取り組む事で、識を確実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査 年5回実施する。
- (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。基本的な授業態度が守られているか。
- (3) 課題 長期休業中の復習プリント、必要に応じて課す提出物。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。積極的に発言し、質問を出すことができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。

(3) 技能・表現

得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第6章 現代日本の政治 1. 政党の役割 2. 政党政治 3. 選挙制度 4. 現代民主政治の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。 ・選挙の意義を考え、選挙制度の問題点から改善方法を模索する。 ・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。 	○			○	
	5	第7章 国際政治と日本 1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と地域統合	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会とは何か、国際政治の目的が何かなど基礎的事項を理解する。 ・国際連合が設立された経緯やその目的を国際連盟との比較を通して理解する。 	○			○	
	6	3. 国際政治の動向 4. 核兵器と軍備管理・軍備縮小 5. 国際社会における日本  	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、東西対立が核兵器の開発やその後の国際関係に与えている影響を学習する。また、冷戦後の世界の動きを日本との関わりにも注意して学習する。紛争やテロ行為を客観的に考察し、それらのもたらす影響を理解することで、平和な世界の尊さとその実現のための方策を思案する。 	○		○	○	
2	7	第2編 現代の経済 第1章 経済社会と経済体制 1. 経済活動の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費のサイクルが人間社会の存立条件であることを再認識すると同時に、家計・企業・政府の三つの経済主体のそれぞれの特徴と相互関係を考察する。 	○	○		○	
	8	2. 経済主体と国民所得・国富 3. 経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> ・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活を支えるフローとストックの意味を理解する。 ・資本主義経済では景気の変動が避けられないこと、またそれに伴う問題について理解する。 	○	○		○	
	9	4. 市場経済にいたる経済体制の変容 5. 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義の仕組みとその特徴を理解する。その発展と変容を、矛盾を克服する試みとして登場した社会主義と比較しながら理解する。 ・市場機構の限界の内容と、政府の果たす役割の重要性を理解させる。 	○	○		○	
		6. 企業の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済における会社企業の役割と、特に株式会社の仕組みについて理解する。 	○			○	
	10	7. 物価の動き  	<ul style="list-style-type: none"> ・時代によって生活が変化するのに伴い、物価も変化してきたことを理解し、経済の動きを知るきっかけを掴む。実際の物価動向とその原因を考察し、まとめて発表する。 	○		○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/△
	11	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき  	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○			○	○
	12	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。	○	○	○	○	○
3	1	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義 	・「第2の誕生」「マージナルマン」等を学習し、青年期特有の不安を、客観的に理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 青年期の課題 	・青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点を持つ。〈道徳教育を実施〉	○	○	○	○	○
		第2章 凶問としての自覚 第1節 田リシア思想 1 自然哲学とソフィスト 	・古代ギリシアの自然哲学の誕生を通じて、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	○	○	○	○	○
	2	2 ソクラテス	・知的探求が善く生きることと一体であるという、ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。	○	○	○	○	○
		3 プラトン	・理想主義であるイデア論の特徴を理解し、理性の役割や「哲人政治」の意義について考える。	○	○	○	○	○
		4 アリストテレス	・アリストテレスの自然観、および道徳論、国家論の、現実主義的な特徴を理解する。	○	○	○	○	○
	2	5 ヘレニズム時代の思想	・自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 田リスト教 1 旧約聖書	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ一神教の特徴を理解する。	○	○	○	○	○
		2 イエス 	・神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。	○	○	○	○	○
		3 キリスト教の誕生と展開	・イエス＝キリストの信仰の成立を学習し、パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。	○	○	○	○	○
	3	第3節 イスラーム	・キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解し、イスラーム共同体の意義を考える。	○	○	○	○	○

立

活
基
—
現
掛
の
—
な
—
な
知

]

]

ECK
Δ ×

—

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理・歴史科	科目	日本史B	単位	4	単位
対象コース	カレッジコース (カレッジ)	コース	対象クラス	2年	3	組
使用教科書	詳説日本史B (山川出版社)					
使用副教材	最新 日本史図表 三訂版 (第一学習社) 二高の日本史 (本校教材)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにとまなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容 ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。 ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権 (幕藩領主制) へと変化していったことを学びます。 ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。 ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかで位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 3) センター試験だけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れていくので、重要語句の整理と深い理解が必要です。 (2) 家庭 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う (授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど) 3) 単元毎に宿題を課すので、解答して提出すること。 4) 模擬試験前に過去問 (進研模試・全統模試など) を宿題として配付するので、必ず提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何をを使って評価するのか ①定期考査：年5回の定期考査。 ②宿題：単元毎に問題プリントを宿題として配布するので、正確に解答して提出すること。 ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。 ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出してもらいます。
評価における定期考査の割合 70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。 (2) 思考・判断 アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。 (3) 技能・表現 教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。 (4) 知識・理解 習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか		重視する評価の観点				CHECK		
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり	①「日本人」の形成について、新人の日本列島への移動などを通じて把握させる。 ②温暖化がもたらした縄文文化の発展について、土器や生業の変化を通じて把握させる。	●	●	●	●	○
		2. 農耕社会の成立	①鉄器や農耕の伝来がもたらした大きな意義を把握させる。 ②中国の史書の基本的な理解力を養う。	●	●	●	●	○
		3. 古墳とヤマト政権	①古墳築造の意味やその変遷の理解を通じて、ヤマト政権の成立過程を把握させる。 ②史書や金石文の基本的な理解力を養う。 ③4～5世紀の中国・朝鮮の情勢変化が日本にもたらした大きな意義について把握させる。	●	●	●	●	○
	5	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷	①ヤマト政権の豪族間の抗争のなかから、やがて蘇我氏主導の推古朝の政治が飛鳥で始まることを把握させる。 ②飛鳥文化と中国南北朝文化との関連性について理解させる。	●	●	●	●	○
		【第1回考査】						
		2. 律令国家への道	①大化の改新から天智・天武・持統朝にかけて、律令制が形成されていったことを理解させる。	●	●	●	●	○
		3. 平城京の時代	②律令体制の基本的しくみについて理解させる。 ①平城京遷都の歴史的意義について理解させる。	●	●	●	●	○
		4. 天平文化	②藤原氏の進出と聖武朝の政治について理解させる。 ①律令制度の確立と国史編纂事業が関連していること、『万葉集』編纂の意義を理解させる。	●	●	●	●	○
	6	5. 平安王朝の形成	②国家仏教の意味とその歴史的背景、仏教美術について理解させる。	●	●	●	●	○
		第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治	①桓武・平城・嵯峨天皇の時期の遷都・蝦夷征討・政治改革について理解させる。 ②弘仁・貞観文化について、密教と漢文学を中心に理解させる。	●	●	●	●	○
		2. 国風文化	①藤原北家の台頭とその背景にある外戚関係、摂関政治の誕生について理解させる。 ②10世紀初頭の唐の滅亡が、日本を含む東アジア全体に及ぼした影響について理解させる。	●	●	●	●	○
		【第2回考査】						
3. 地方政治の展開と武士		①かな文字の発達、日本の文学史上に大きな影響を与えたことを理解させる。 ②浄土教普及の背景とその文化的影響について理解させる。 ①10世紀における律令政府の地方支配の困難化と国司の権限強化について理解させる。 ②寄進地系荘園発達の背景について理解させる。	●	●	●	●	○	
7	第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭	③都から下った辺境軍事貴族が、地方の武士をまとめ武士団を形成することを理解させる。	●	●	●	●	○	
	2. 鎌倉幕府の成立	①摂関政治を否定して院政が成立してくることを理解させる。 ②院政の矛盾のなかから、やがて平氏政権が誕生してくることを理解させる。 ①治承・寿永の乱の過程で、律令制的な国家制度とは別に、主従制度を根幹とした東国の幕府制度が誕生してくることを理解させる。	●	●	●	●	○	
	3. 武士の社会	②鎌倉幕府の初期の職制を理解させる。 ①執権政治の確立過程と御成敗式目制定の関連性を理解させる。 ②地頭領主制の内容と荘園侵略を理解させる。	●	●	●	●	○	
	4. 蒙古襲来と幕府の衰退	①蒙古襲来と得宗専制政治の確立の関連性を理解させる。 ②地頭の窮乏化による幕府の基盤の動揺を理解させる。	●	●	●	●	○	
	5. 鎌倉文化	①鎌倉新仏教の教えと民衆への浸透の背景を理解させる。 ②武士の台頭と鎌倉期の文学・建築との関連性を理解させる。	●	●	●	●	○	
8	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	①鎌倉幕府の滅亡から建武の新政にいたる流れを理解させる。	●	●	●	●	○	
	【第3回考査】							
2	8			●	●	●	●	○
				●	●	●	●	○
9	9			●	●	●	●	○
				●	●	●	●	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか		重視する評価の観点	CHECK						
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×	
11		2. 幕府の衰退と庶民の台頭	②南北朝の動乱期を通じて、守護大名を基盤に室町幕府が成立していった過程を理解させる。 ③足利義満による「日本国王」化と王権篡奪構想、守護大名の圧伏と将軍権力の強化について関連させながら理解させる。	●	●	●	●		
		3. 室町文化	①足利義教以降の室町幕府権力の衰退を、各種の争乱・政変・一揆を通じて理解させる。 ②惣村の発達とそれを支えた室町期の経済を関連させて理解させる。 ③倭寇と日明貿易・日朝貿易の関連性、琉球王国・蝦夷ヶ島における豊かな交易活動を理解させる。	●	●	●	●	○	
		4. 戦国大名の登場	①南北朝文化・北山文化・東山文化それぞれの文化を、五山・十刹の制、惣村の発展、禅宗と関連させて理解させる。 ②応仁の乱により都の文化が地方へ普及していったことを理解させる。	●	●	●	●	○	
		第6章 幕藩体制の確立	①戦国大名が、検地・分国法などを通じて分国を一円支配していったことを理解させる。 ②戦国大名領のほか、本願寺・一向一揆による支配地域、堺・博多・京都などの自治都市があったことを理解させる。	●	●	●	●	○	
		1. 織豊政権	①大航海時代と南蛮貿易、鉄砲伝来などの影響を理解させる。 ②豊臣政権による太閤検地・刀狩などの兵農分離政策を、戦国時代の土地制度・身分制度と比較しながら理解させる。	●	●	●	●	○	
		2. 桃山文化	①統一政権・南蛮貿易と桃山文化の関連性を理解させる。	●	●	●	●	○	
		3. 幕藩体制の成立	①徳川家康から家光にかけての3代将軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。 ②鎖国体制の成立過程を理解させる。	●	●	●	●	○	
	12		4. 幕藩社会の構造	①町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。	●	●	●	●	○
			第7章 幕藩体制の展開	【第4回考査】					
		1	1. 幕政の安定	①4代将軍家綱から7代将軍家継までの時期に、武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。 ②将軍権威の維持と朝廷有和政策の関連性を理解させる。	●	●	●	●	○
			2. 経済の発展	①農業や漁業技術の発展により生産力が格段にあがり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。 ②交通・流通、株仲間などの商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。	●	●	●	●	○
3. 元禄文化			①文治主義により儒学が幕府の保護を受けつつ発展したこと、その儒学思想の展開が様々な学問の発展に影響を与えたことを理解させる。 ②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。	●	●	●	●	○	
2		第8章 幕藩体制の動揺	①享保の改革から天保の改革にいたる幕政改革を理解させる。 ②幕政改革の背景にある生産力の発展、剰余の成立とその収奪、商品経済の発展、地主制の進展、百姓一揆、三大飢饉を関連させて理解させる。	●	●	●	●	○	
		1. 幕政の改革	①幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●	●	●	○	
	2. 宝暦・天明期の文化	①欧米列強の接近とそれに対する幕府の対応を理解させる。 ②天保の改革の失敗後の幕府権力の衰退について理解させる。 ③幕末の藩政改革に成功した薩長藩の台頭について理解させる。	●	●	●	●	○		
	3. 幕府の衰退と近代への道	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。 ②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●	●	●	○		
3	4. 化政文化		●	●	●	●	○		
	第9章 近代国家の成立	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●	●	●	○		
	1. 開国と幕末の動乱	【第5回考査】							
	2. 明治維新と富国強兵	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。 ②政府主導により殖産興業・文明開化が推進されていった過程を理解させる。	●	●	●	●	×		
	3. 立憲国家の成立と日清戦争	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	×		

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理・歴史科	科目	日本史B	単位	4	単位
対象コース	カレッジコース (SC/AC)	コース	対象クラス	2 年	2	組
使用教科書	詳説日本史B (山川出版社)					
使用副教材	最新 日本史図表 三訂版 (第一学習社) 二高の日本史 (本校教材)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な鎌倉政権・徳川政権（幕藩領主制）へと変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) センター試験だけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れていくので、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 単元毎に宿題を課すので、解答して提出すること。
- 4) 模擬試験前に過去問（進研模試・全統模試など）を宿題として配付するので、必ず提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- ①定期考査：年5回の定期考査。
- ②宿題：単元毎に問題プリントを宿題として配布するので、正確に解答して提出すること。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出してもらいます。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。

(2) 思考・判断

アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。

(3) 技能・表現

教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。

(4) 知識・理解

習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

学期	月	学習の項目	学習の内容							
11		2. 幕府の衰退と庶民の台頭	②南北朝の動乱期を通じて、守護大名を基盤に室町幕府が成立していった過程を理解させる。	●	●	●	●	●	●	
			③足利義満による「日本国王」化と王権篡奪構想、守護大名の圧伏と將軍権力の強化について関連させながら理解させる。	●	●	●	●	●	●	●
			①足利義教以降の室町幕府権力の衰退を、各種の争乱・政変・一揆を通じて理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			②惣村の発達とそれを支えた室町期の経済を関連させて理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
		3. 室町文化	③倭寇と日明貿易・日朝貿易の関連性、琉球王国・蝦夷ヶ島における豊かな交易活動を理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			①南北朝文化・北山文化・東山文化それぞれの文化を、五山・十刹の制、惣村の発展、禪宗と関連させて理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			②応仁の乱により都の文化が地方へ普及していったことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			①戦国大名が、検地・分国法などを通じて分国を一円支配していったことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
		4. 戦国大名の登場	②戦国大名領のほか、本願寺・一向一揆による支配地域、堺・博多・京都などの自治都市があったことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			①大航海時代と南蛮貿易、鉄砲伝来などの影響を理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			②豊臣政権による太閤検地・刀狩などの兵農分離政策を、戦国時代の土地制度・身分制度と比較しながら理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
			①統一政権・南蛮貿易と桃山文化の関連性を理解させる。	●	●	●	●	●	●	○
第6章 幕藩体制の確立	1. 織豊政権	①徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		②鎖国体制の成立過程を理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		①町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		②徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
	2. 桃山文化	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
	3. 幕藩体制の成立	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
	4. 幕藩社会の構造	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	●	○	
12		第7章 幕藩体制の展開	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		1. 幕政の安定	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		2. 道	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
	3. 元禄文化	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	第8章 幕藩体制の動揺	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	1. 幕政の改革	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	2. 宝暦・天明期の文化	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	3. 幕府の衰退と近代への道	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	4. 化政文化	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
3		第9章 近代国家の成立	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		1. 開国と幕末の動乱	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		2. 明治維新と富国強兵	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
			③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
	3. 立憲国家の成立と日清戦争	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
	道徳	③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		
		③徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●	●	○		

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	地理B		単位	3	単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	2年	1組		
使用教科書	新詳地理B (帝国書院)・新詳高等地図 (帝国書院)						
使用副教材	新地理要点ノート (啓隆社)						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

2年生では、農業、林業、水産業、エネルギー資源、鉱産資源、工業、第3次産業、交通・通信、貿易、人口、村落と都市、民族、宗教、領土について学びます。これらの学びを通して、以下のことを身につけて下さい。

- (1) 地理に関係するさまざまな事象について、事象の空間における規則性や傾向、各地域の特色や課題を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関するさまざまな情報を、適切に調べてまとめる技能を身につけて下さい。
- (2) 地理に関係する事象について、その意味や役割、特色やお互いの関係性、位置や分布、人間と自然環境の相互依存の関係、地域性などに注目しながら、そこにある地理的な課題を見つけ、解決方法を探り、説明や議論する力を身につけて下さい。
- (3) 地理に関係する事象について、よりよい社会を実現するために「そこにある課題」を、主体的に探究しようとする態度を養い、わが国の国土・国民に対する認識を深めながら、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する態度を身につけて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業、食料問題を学びます。
- (2) エネルギー資源、化石燃料、電力、鉱産資源、資源・エネルギー問題を学びます。
- (3) 工業の種類、工業の立地、世界の工業地域、工業の現状と課題、日本の工業を学びます。
- (4) 第3次産業、観光産業、世界の交通網、情報と通信の発達、国際分業、貿易の自由化、日本の貿易を学びます。
- (5) 世界の人口、世界の人口問題、日本の人口問題、村落の形態、都市の機能、世界の都市問題、日本の都市問題を学びます。
- (6) 世界の衣食住、日本の衣食住、世界の民族、世界の言語、世界の宗教、世界の民族・領土問題、日本の領土問題を学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業では、教科書の用語・地図帳の地名を覚えるだけでなく、地図・写真・統計資料などから、事象の特色や課題を読みとるようにしましょう。その際、自分で考えることはもちろんですが、みんなと一緒に考えること、わかりやすく発表することができるようにして下さい。また、先生の説明の聞き取りに注意をはらい、「大切と思うこと」をプリントなどに書き込みましょう。その書き込みが定期考査・模擬試験に出題されるようになれば、地理のセンスが身につけてきたこととなります。

(2) 家庭

- ① 復習は重要です。授業で理解できなかった用語や内容は、その日のうちに先生に質問するなどして理解するようにしましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。ここで見た「現在の世界の姿」が、大学共通テストの解答探しに結びつくのです。
- ③ 模試の見直しの際に、模範解答の解説書を熟読し、「解答の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何をを使って評価するのか

- (1) 定期考査→年5回の定期考査は、授業の学習内容から出題します。
- (2) 夏休み・冬休みの課題→予習・復習用の課題です。休み明けに、課題内容の確認テストを行います。
- (3) 地図読解・主題図の作業→地形図を用いての読図演習、統計資料を用いての分布図作成を行います。
- (4) ノート・課題プリントの点検→記入内容 (文章による解答をおろそかにしていないか等) を点検します。
- (5) 授業における活動内容→個人としての説明・発表の内容、集団内での学び合い・討論の様子などを観察します。

評価における定期考査の割合

65 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における発言、課題や作業への取り組みが積極的であり、地理への関心を深め授業内容を進んで理解しようとしているのを見ます。また、課題や作業の提出状況と仕上がり、確認テストへの取り組み姿勢も見ます。

(2) 思考・判断

授業の各分野において、単に用語を暗記するのではなく、地図や統計資料を用いての発展的な課題に対し、その形状や数値の中に潜む、自然や人間の生産活動の質的・量的変化を読み取れているのを見ます。

(3) 技能・表現

新聞やテレビで得た情報を、地理の学習内容に結びつけることができるか。また、授業の内容理解にどのような資料を用い、どのように活用するのが適切か。情報収集と活用のための技能と表現力を見ます。

(4) 知識・理解

授業で学んだ自然環境・産業・資源について、基本的な用語や説明内容を正しく理解し、ある地域の特色や地域間の共通性などをとらえることができたか。地理的な見方や考え方が身につけているのを見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点 **CHECK**

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×	
1	4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察							
		2章 資源と産業							
		1節 世界の農林水産業							
		3 現代世界の農業の現状と課題	農業の近代化と課題／途上国における農業の二重構造／グローバル化のなかの世界の農業／影響力が強まる農業の国際化	●	●	●	●		
		技能をみがく12	図形表現図の読み取り方			●			
		4 世界の林業・水産業	世界の森林資源／持続可能な森林の開発に向けて／世界のおもな漁場／漁業環境の変化と栽培漁業						
		5 日本の農林水産業	世界と比べた日本の農業構造／農業政策の変化／日本の林業／日本の水産業						
		5	2節 食料問題						
			1 世界の食料問題	食料需給の地域的なかたより／不安定さが増す世界の食料供給	●	●	●	●	
			2 発展途上国の食料問題	生産性の低い農業と食料不足／自立した食料供給／フェアトレードの取組み					
	3 先進国の食料問題		先進国にかたよる食料						
	4 日本の食料問題		食料自給率の低下／食料の安定供給に向けた取組み						
	技能をみがく13		統計資料のグラフ化・グラフの読み取り方			●			
	● 第1回定期考査								
	3節 世界のエネルギー・鉱産資源								
	1 エネルギー資源の種類と資源		エネルギーの種類と資源利用の変化	●	●	●	●		
	2 化石燃料の分布と利用		エネルギーのなかめである石油／埋蔵量の多い石炭／需要が高まる天然ガス						
	3 電力の利用		国力によって異なる電力生産						
	4 鉱産資源の種類と利用	鉱産資源の生産と分布／需要が高まるレアメタル							
	4節 資源・エネルギー問題								
	1 現代世界の資源・エネルギー問題	限られた資源と生産・消費の不均衡	●	●	●	●			
2 さまざまな問題・エネルギー問題	資源ナショナリズムと石油をめぐる動き／化石燃料の新たな展開／エネルギーの利用／再生可能エネルギーの利用								
3 日本の資源・エネルギー問題	輸入にたよる資源／エネルギー源の安定確保に向けて／省エネルギーへの取組み								
6	5節 世界の工業								
	1 工業の発達と種類	工業の特徴／工業の発達と種類／伝統産業の変化	●	●	●	●			
	2 工業の立地とその変化	工業の立地／産業の集積と分散							
	3 世界の工業地域	工業がさかんな地域／先進国の工業化／企業の多国籍化 新興工業国の台頭／BRICSの工業化と後発工業国							
	4 現代世界の工業の現状と課題	国際分業の進展／繊維工業／石油精製・石油化学工業／鉄鋼業／電気機械工業／自動車工業／知識産業への転換							
	5 日本の工業	日本の工業の発達と変化／海外へ進出する企業／産業の空洞化／日本の工業の新たな取組み							
	技能をみがく14	分布図の読み取り方			●				
	6節 第3次産業								
	1 第3次産業の発展	現代世界の第3次産業／商業の立地と形態の変化／商業形態の地域差	●	●	●	●			
	技能をみがく15	三角グラフの読み取り方							
2 多様化する観光産業	観光の国際化／多様化する観光								
3 日本の観光産業	日本の観光産業／外国人観光客の誘致								
7	● 第2回定期考査								
	7節 世界を結ぶ交通・通信								
	1 世界の交通網	交通機関の種類と発達／航空交通の発達／航空交通網の変化と地域差／水上交通／鉄道交通／道路交通	●	●	●	●			
2 情報と通信の発達	情報の発達と一体化する世界／高度情報化社会における地域差								

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点 CHECK

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
2	8	8節 現代世界の貿易と経済圏		●	●	●	●	
		1 私たちの生活を支える貿易	私たちの暮らしと結びつく貿易/サービス貿易の発達					
		2 国際分業の発達と貿易の地域間格差	国際分業の発達/貿易の地域間格差					
		3 貿易の自由化と経済連携	貿易の自由化/WTOの役割と課題/拡大する経済連携					
	9	4 日本の貿易の現状と課題	日本の貿易の変化と課題					
		3章 人口、村落・都市						
		1節 世界の人口	世界の人口分布/世界の人口増加/人口の構成と転換/国際的な人口移動/移民労働者の増加	●	●	●	●	
		2節 人口問題		●	●	●	●	
		1 世界の人口問題	世界で起こる人口問題					
		2 発展途上国の人口問題	発展途上国の人口増加の要因					
		3 先進国の人口問題	少子高齢化が進む先進国					
		4 日本の人口問題	急速に進む少子高齢化/高齢化への対応と課題/少子化への対応と課題/労働者の不足と外国人の受け入れ					
	10	技能をみがく16	人口ピラミッドの読み取り方					
		● 第3回定期考査						
		3節 村落と都市		●	●	●	●	
		1 集落の成り立ち	集落の立地条件/集落の発達と分化					
		2 村落の形態と機能	村落の形態と機能/村落共同体の変容					
		技能をみがく17	地形図の利用(5)~集落の形態~					●
		技能をみがく18	地形図の利用(6)~新旧の比較~					●
		3 都市の機能と性格	都市の成立と発達/世界の大都市の分布と発達/都市の機能/都市内部の機能と構造					
4節 都市・居住問題			●	●	●	●		
1 世界の都市・居住問題		都市の人口急増/都市の居住環境悪化 ▲						
11	2 発展途上国の都市・居住問題	都市人口の急増による問題/スラムの形成/発展途上国の都市問題解決のために						
	3 先進国の都市・居住問題	都市環境の悪化/インナーシティ問題/先進国の都市問題解決への取り組み						
	4 日本の都市・居住問題	東京への一極集中/都市の地域格差/人口の集中と都市・居住問題/再開発の取り組み						
	4章 生活文化、民族・宗教							
	1節 世界の衣食住		●	●	●	●		
	1 世界の衣食住の地域的彩	地域の文化とは何か/気候や文化にあわせた衣服の工夫/主食となる作物と各地の食文化/気候や生活様式に合わせた住居						
	2 衣食住の世界的な画一化	画一化が進む衣食住/社会・経済と衣食住						
	3 日本の衣食住	日本の衣食住の変化						
	技能をみがく19	写真の見方(3)~生活文化~					●	
	● 第4回定期考査							
12	2節 民族と宗教		●	●	●	●		
	1 世界の民族と言語	民族とは何か/先住民と少数民族/民族と言語						
	2 世界の宗教	宗教とは何か/世界の宗教とその広がり/生活と宗教のかかわり/食生活と宗教						
	3節 現代世界の国家	国家と領域/さまざまな国境/国家と主権/国家の形態と民族/国際連合の役割	●	●	●	●		
	4節 民族・領土問題		●	●	●	●		
	1 世界の民族・領土問題	紛争の現状と移り変わり						
	2 多様な原因をもつ民族・領土問題	言語・宗教をめぐる問題/資源と結びつく領土問題/国家をもたない民族の問題						
	1	3 共生に向けた取り組み	民族・領土問題の難しさ/多文化共生への取り組み/共生をめざして					
		4 日本の領土をめぐる問題と外国人との共生	日本の領域/北方領土の問題/竹島の問題/尖閣諸島/日本に住む外国人/日本に来る外国人との共生					



学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
	2	第三部 現代世界の地誌的考察 2章 現代世界の諸地域 2節 東アジア 1 中国の歩みと巨大な人口 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と巨大市場 4 中国の海外進出 ● 第5回定期考査	日本に影響を与えた文化／社会主義経済から市場経済へ／多民族からなる中国／世界最大の人口 さまざまな食生活と農業／農業の変化と課題 世界の工場／経済発展と生活の変化／都市の環境問題／地域格差と人口の移動／内陸部の開発 世界に広がる中国系住民／中国の海外進出	●	●	●	●	
	3	4節 南アジア 1 南アジアの歩みと ヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの産業と変化	南アジアの成り立ち／多様な言語と宗教／ヒンドゥー教と人々の生活 自然と農業のかかわり／農業の発展と人々の生活 成長するインドの工業／急成長するICT産業／経済成長と生活の変化	●	●	●	●	

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
アイコンをクリック

道徳

※FSVIに接続してる場合のみ

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理・歴史科	科目	日本史B	単位	4	単位
対象コース	一貫コース	コース	対象クラス	2年	1	組
使用教科書	詳説日本史B (山川出版社)					
使用副教材	最新 日本史図表 三訂版 (第一学習社) 二高の日本史 (本校教材)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってほしいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組みさせるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な鎌倉政権・徳川政権(幕藩領主制)へと変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) センター試験だけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れていくので、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う(授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど)
- 3) 単元毎に宿題を課すので、解答して提出すること。
- 4) 模擬試験前に過去問(進研模試・全統模試など)を宿題として配付するので、必ず提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- ①定期考査：年5回の定期考査。
- ②宿題：単元毎に問題プリントを宿題として配布するので、正確に解答して提出すること。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出してもらいます。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。

(2) 思考・判断

アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。

(3) 技能・表現

教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。

(4) 知識・理解

習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか		重視する評価の観点				CHECK			
学期	月	学習の項目	学習の内容		関	思	技	知	○△×
1	4	第1章 日本文化のあけぼの	<p>①「日本人」の形成について、新人の日本列島への移動などを通じて把握させる。</p> <p>②温暖化がもたらした縄文文化の発展について、土器や生業の変化を通じて把握させる。</p> <p>①鉄器や農耕の伝来がもたらした大きな意義を把握させる。</p> <p>②中国の史書の基本的な理解力を養う。</p> <p>①古墳築造の意味やその変遷の理解を通じて、ヤマト政権の成立過程を把握させる。</p> <p>②史書や金石文の基本的な理解力を養う。</p> <p>③4～5世紀の中国・朝鮮の情勢変化が日本にもたらした大きな意義について把握させる。</p> <p>①ヤマト政権の豪族間の抗争のなかから、やがて蘇我氏主導の推古朝の政治が飛鳥で始まることを把握させる。</p> <p>②飛鳥文化と中国南北朝文化との関連性について理解させる。</p> <p style="text-align: center;">【第1回考査】</p> <p>①大化の改新から天智・天武・持統朝にかけて、律令制が形成されていたことを理解させる。</p> <p>②律令体制の基本的しくみについて理解させる。</p> <p>①平城京遷都の歴史的意義について理解させる。</p> <p>②藤原氏の進出と聖武朝の政治について理解させる。</p> <p>①律令制度の確立と国史編纂事業が関連していること、『万葉集』編纂の意義を理解させる。</p> <p>②国家仏教の意味とその歴史的背景、仏教美術について理解させる。</p> <p>①桓武・平城・嵯峨天皇の時期の遷都・蝦夷征討・政治改革について理解させる。</p> <p>②弘仁・貞観文化について、密教と漢文学を中心に理解させる。</p> <p>①藤原北家の台頭とその背景にある外戚関係、摂関政治の誕生について理解させる。</p> <p>②10世紀初頭の唐の滅亡が、日本を含む東アジア全体に及ぼした影響について理解させる。</p> <p style="text-align: center;">【第2回考査】</p> <p>①かな文字の発達が、日本の文学史上に大きな影響を与えたことを理解させる。</p> <p>②浄土教普及の背景とその文化的影響について理解させる。</p> <p>①10世紀における律令政府の地方支配の困難化と国司の権限強化について理解させる。</p> <p>②寄進地系荘園発達の背景について理解させる。</p> <p>③都から下った辺境軍事貴族が、地方の武士をまとめ武士団を形成することを理解させる。</p> <p>①摂関政治を否定して院政が成立してくることを理解させる。</p> <p>②院政の矛盾のなかから、やがて平氏政権が誕生してくることを理解させる。</p> <p>①治承・寿永の乱の過程で、律令制的な国家制度とは別に、主従制度を根幹とした東国の幕府制度が誕生してくることを理解させる。</p> <p>②鎌倉幕府の初期の職制を理解させる。</p> <p>①執権政治の確立過程と御成敗式目制定の関連性を理解させる。</p> <p>②地頭領主制の内容と荘園侵略を理解させる。</p> <p>①蒙古襲来と得宗専制政治の確立の関連性を理解させる。</p> <p>②地頭の窮乏化による幕府の基盤の動揺を理解させる。</p> <p>①鎌倉新仏教の教えと民衆への浸透の背景を理解させる。</p> <p>②武士の台頭と鎌倉期の文学・建築との関連性を理解させる。</p> <p>①鎌倉幕府の滅亡から建武の新政にいたる流れを理解させる。</p> <p style="text-align: center;">【第3回考査】</p>	●	●	●	○		
		1. 文化のはじまり		●	●	●	○		
	5	2. 農耕社会の成立		●	●	●	○		
		3. 古墳とヤマト政権		●	●	●	○		
	2	6		第2章 律令国家の形成	●	●	●	○	
				1. 飛鳥の朝廷	●	●	●	○	
		7		2. 律令国家への道	●	●	●	○	
				3. 平城京の時代	●	●	●	○	
		8		4. 天平文化	●	●	●	○	
				5. 平安王朝の形成	●	●	●	○	
9		第3章 貴族政治と国風文化	●	●	●	○			
		1. 摂関政治	●	●	●	○			
10		2. 国風文化	●	●	●	○			
		3. 地方政治の展開と武士	●	●	●	○			
11	第4章 中世社会の成立	●	●	●	○				
	1. 院政と平氏の台頭	●	●	●	○				
12	2. 鎌倉幕府の成立	●	●	●	○				
	3. 武士の社会	●	●	●	○				
13	4. 蒙古襲来と幕府の衰退	●	●	●	○				
	5. 鎌倉文化	●	●	●	○				
14	第5章 武家社会の成長	●	●	●	○				
	1. 室町幕府の成立	●	●	●	○				

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

学期	月	学習の項目	学習の内容							
11		2. 幕府の衰退と庶民の台頭	②南北朝の動乱期を通じて、守護大名を基盤に室町幕府が成立していった過程を理解させる。 ③足利義満による「日本国王」化と王権篡奪構想、守護大名の圧伏と將軍権力の強化について関連させながら理解させる。	●	●	●	●	●	●	
		3. 室町文化	①足利義教以降の室町幕府権力の衰退を、各種の争乱・政変・一揆を通じて理解させる。 ②惣村の発達とそれを支えた室町期の経済を関連させて理解させる。 ③倭寇と日明貿易・日朝貿易の関連性、琉球王国・蝦夷ヶ島における豊かな交易活動を理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		4. 戦国大名の登場	①南北朝文化・北山文化・東山文化それぞれの文化を、五山・十刹の制、惣村の発展、禪宗と関連させて理解させる。 ②応仁の乱により都の文化が地方へ普及していったことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		第6章 幕藩体制の確立	①戦国大名が、検地・分国法などを通じて分国を一円支配していったことを理解させる。 ②戦国大名領のほか、本願寺・一向一揆による支配地域、堺・博多・京都などの自治都市があったことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		1. 織豊政権	①大航海時代と南蛮貿易、鉄砲伝来などの影響を理解させる。 ②豊臣政権による太閤検地・刀狩などの兵農分離政策を、戦国時代の土地制度・身分制度と比較しながら理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		2. 桃山文化	①統一政権・南蛮貿易と桃山文化の関連性を理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		3. 幕藩体制の成立	①徳川家康から家光にかけての3代將軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。 ②鎖国体制の成立過程を理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		4. 幕藩社会の構造	①町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
	【第4回考査】									
	12		第7章 幕藩体制の展開	①4代將軍家綱から7代將軍家継までの時期に、武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。	●	●	●	●	●	○
			1. 幕政の安定	②將軍権威の維持と朝廷宥和政策の関連性を理解させる。	●	●	●	●	●	○
			2. 道 	①農業や漁業技術の発展により生産力が格段にあがり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。 ②交通・流通、株仲間などの商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。	●	●	●	●	●	○
3	1	3. 元禄文化	①文治主義により儒学が幕府の保護を受けつつ発展したこと、その儒学思想の展開が様々な学問の発展に影響を与えたことを理解させる。 ②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		第8章 幕藩体制の動揺	①享保の改革から天保の改革にいたる幕政改革を理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		1. 幕政の改革	②幕政改革の背景にある生産力の発展、剰余の成立とその収奪、商品経済の発展、地主制の進展、百姓一揆、三大飢饉を関連させて理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		2. 宝暦・天明期の文化	①幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●	●	●	●	○	
2		3. 幕府の衰退と近代への道	①欧米列強の接近とそれに対する幕府の対応を理解させる。 ②天保の改革の失敗後の幕府権力の衰退について理解させる。 ③幕末の藩政改革に成功した薩長雄藩の台頭について理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		4. 化政文化	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。 ②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		第9章 近代国家の成立	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		1. 開国と幕末の動乱		●	●	●	●	●	○	
【第5回考査】										
3		2. 明治維新と富国強兵	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。 ②政府主導により殖産興業・文明開化が推進されていった過程を理解させる。	●	●	●	●	●	○	
		3. 立憲国家の成立と日清戦争 	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	●	○	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	地理B		単位	3	単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	2年	1組		
使用教科書	新詳地理B (帝国書院)・新詳高等地図 (帝国書院)						
使用副教材	新地理要点ノート (啓隆社)						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

2年生では、農業、林業、水産業、エネルギー資源、鉱産資源、工業、第3次産業、交通・通信、貿易、人口、村落と都市、民族、宗教、領土について学びます。これらの学びを通して、以下のことを身につけて下さい。

- (1) 地理に関係するさまざまな事象について、事象の空間における規則性や傾向、各地域の特色や課題を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関するさまざまな情報を、適切に調べてまとめる技能を身につけて下さい。
- (2) 地理に関係する事象について、その意味や役割、特色やお互いの関係性、位置や分布、人間と自然環境の相互依存の関係、地域性などに注目しながら、そこにある地理的な課題を見つけ、解決方法を探り、説明や議論する力を身につけて下さい。
- (3) 地理に関係する事象について、よりよい社会を実現するために「そこにある課題」を、主体的に探究しようとする態度を養い、わが国の国土・国民に対する認識を深めながら、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する態度を身につけて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業、食料問題を学びます。
- (2) エネルギー資源、化石燃料、電力、鉱産資源、資源・エネルギー問題を学びます。
- (3) 工業の種類、工業の立地、世界の工業地域、工業の現状と課題、日本の工業を学びます。
- (4) 第3次産業、観光産業、世界の交通網、情報と通信の発達、国際分業、貿易の自由化、日本の貿易を学びます。
- (5) 世界の人口、世界の人口問題、日本の人口問題、村落の形態、都市の機能、世界の都市問題、日本の都市問題を学びます。
- (6) 世界の衣食住、日本の衣食住、世界の民族、世界の言語、世界の宗教、世界の民族・領土問題、日本の領土問題を学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業では、教科書の用語・地図帳の地名を覚えるだけでなく、地図・写真・統計資料などから、事象の特色や課題を読みとるようにしましょう。その際、自分で考えることはもちろんですが、みんなと一緒に考えること、わかりやすく発表することができるようにして下さい。また、先生の説明の聞き取りに注意をはらい、「大切と思うこと」をプリントなどに書き込みましょう。その書き込みが定期考査・模擬試験に出題されるようになれば、地理のセンスが身につけてきたこととなります。

(2) 家庭

- ① 復習は重要です。授業で理解できなかった用語や内容は、その日のうちに先生に質問するなどして理解するようにしましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。ここで見た「現在の世界の姿」が、大学共通テストの解答探しに結びつくのです。
- ③ 模試の見直しの際に、模範解答の解説書を熟読し、「解答の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何をを使って評価するのか

- (1) 定期考査→年5回の定期考査は、授業の学習内容から出題します。
- (2) 夏休み・冬休みの課題→予習・復習用の課題です。休み明けに、課題内容の確認テストを行います。
- (3) 地図読解・主題図の作業→地形図を用いての読図演習、統計資料を用いての分布図作成を行います。
- (4) ノート・課題プリントの点検→記入内容 (文章による解答をおろそかにしていないか等) を点検します。
- (5) 授業における活動内容→個人としての説明・発表の内容、集団内での学び合い・討論の様子などを観察します。

評価における定期考査の割合

65 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における発言、課題や作業への取り組みが積極的であり、地理への関心を深め授業内容を進んで理解しようとしているのを見ます。また、課題や作業の提出状況と仕上がり、確認テストへの取り組み姿勢も見ます。

(2) 思考・判断

授業の各分野において、単に用語を暗記するのではなく、地図や統計資料を用いての発展的な課題に対し、その形状や数値の中に潜む、自然や人間の生産活動の質的・量的変化を読み取れているのを見ます。

(3) 技能・表現

新聞やテレビで得た情報を、地理の学習内容に結びつけることができるか。また、授業の内容理解にどのような資料を用い、どのように活用するのが適切か。情報収集と活用のための技能と表現力を見ます。

(4) 知識・理解

授業で学んだ自然環境・産業・資源について、基本的な用語や説明内容を正しく理解し、ある地域の特色や地域間の共通性などをとらえることができたか。地理的な見方や考え方が身につけているのを見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点 **CHECK**

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察						
		2章 資源と産業						
		1節 世界の農林水産業						
		3 現代世界の農業の現状と課題	農業の近代化と課題／途上国における農業の二重構造／グローバル化のなかの世界の農業／影響力が強まる農業の国際化	●	●	●	●	
		技能をみがく12	図形表現図の読み取り方			●		
	5	4 世界の林業・水産業	世界の森林資源／持続可能な森林の開発に向けて／世界のおもな漁場／漁業環境の変化と栽培漁業					
		5 日本の農林水産業	世界と比べた日本の農業構造／農業政策の変化／日本の林業／日本の水産業					
		2節 食料問題						
		1 世界の食料問題	食料需給の地域的なかたより／不安定さが増す世界の食料供給	●	●	●	●	
		2 発展途上国の食料問題	生産性の低い農業と食料不足／自立した食料供給／フェアトレードの取組み					
		3 先進国の食料問題	先進国にかたよる食料					
		4 日本の食料問題	食料自給率の低下／食料の安定供給に向けた取組み					
		技能をみがく13	統計資料のグラフ化・グラフの読み取り方				●	
		● 第1回定期考査						
		3節 世界のエネルギー・鉱産資源						
	1 エネルギー資源の種類と資源	エネルギーの種類と資源利用の変化	●	●	●	●		
	2 化石燃料の分布と利用	エネルギーのなかめである石油／埋蔵量の多い石炭／需要が高まる天然ガス						
	3 電力の利用	国力によって異なる電力生産						
	4 鉱産資源の種類と利用	鉱産資源の生産と分布／需要が高まるレアメタル						
	4節 資源・エネルギー問題							
	1 現代世界の資源・エネルギー問題	限られた資源と生産・消費の不均衡	●	●	●	●		
2 さまざまな問題・エネルギー問題	資源ナショナリズムと石油をめぐる動き／化石燃料の新たな展開／エネルギーの利用／再生可能エネルギーの利用							
3 日本の資源・エネルギー問題	輸入にたよる資源／エネルギー源の安定確保に向けて／省エネルギーへの取組み							
6	5節 世界の工業							
	1 工業の発達と種類	工業の特徴／工業の発達と種類／伝統産業の変化	●	●	●	●		
	2 工業の立地とその変化	工業の立地／産業の集積と分散						
	3 世界の工業地域	工業がさかんな地域／先進国の工業化／企業の多国籍化						
	4 現代世界の工業の現状と課題	新興工業国の台頭／BRICSの工業化と後発工業国						
	5 日本の工業	国際分業の進展／繊維工業／石油精製・石油化学工業／鉄鋼業／電気機械工業／自動車工業／知識産業への転換						
	技能をみがく14	分布図の読み取り方				●		
	6節 第3次産業							
	1 第3次産業の発展	現代世界の第3次産業／商業の立地と形態の変化／商業形態の地域差	●	●	●	●		
	技能をみがく15	三角グラフの読み取り方						
2 多様化する観光産業	観光の国際化／多様化する観光							
3 日本の観光産業	日本の観光産業／外国人観光客の誘致							
7	● 第2回定期考査							
	7節 世界を結ぶ交通・通信							
	1 世界の交通網	交通機関の種類と発達／航空交通の発達／航空交通網の変化と地域差／水上交通／鉄道交通／道路交通	●	●	●	●		
2 情報と通信の発達	情報の発達と一体化する世界／高度情報化社会における地域差							

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点 CHECK

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×	
2	8	8節 現代世界の貿易と経済圏		●	●	●	●		
		1 私たちの生活を支える貿易	私たちの暮らしと結びつく貿易/サービス貿易の発達						
		2 国際分業の発達と貿易の地域間格差	国際分業の発達/貿易の地域間格差						
		3 貿易の自由化と経済連携	貿易の自由化/WTOの役割と課題/拡大する経済連携						
	9	4 日本の貿易の現状と課題	日本の貿易の変化と課題						
		3章 人口、村落・都市							
		1節 世界の人口	世界の人口分布/世界の人口増加/人口の構成と転換/国際的な人口移動/移民労働者の増加	●	●	●	●		
		2節 人口問題		●	●	●	●		
	10	1 世界の人口問題	世界で起こる人口問題	   					
		2 発展途上国の人口問題	発展途上国の人口増加の要因						
		3 先進国の人口問題	少子高齢化が進む先進国						
		4 日本の人口問題	急速に進む少子高齢化/高齢化への対応と課題/少子化への対応と課題/労働者の不足と外国人の受け入れ						
		技能をみがく16	人口ピラミッドの読み取り方				●		
		● 第3回定期考査							
		3節 村落と都市			●	●	●	●	
		1 集落の成り立ち	集落の立地条件/集落の発達と分化						
		2 村落の形態と機能	村落の形態と機能/村落共同体の変容						
		技能をみがく17	地形図の利用(5)~集落の形態~					●	
	技能をみがく18	地形図の利用(6)~新旧の比較~				●			
	3 都市の機能と性格	都市の成立と発達/世界の大都市の分布と発達/都市の機能/都市内部の機能と構造							
4節 都市・居住問題		●	●	●	●				
1 世界の都市・居住問題	都市の人口急増/都市の居住環境悪化 ▲	   							
2 発展途上国の都市・居住問題	都市人口の急増による問題/スラムの形成/発展途上国の都市問題解決のために								
11	3 先進国の都市・居住問題	都市環境の悪化/インナーシティ問題/先進国の都市問題解決への取り組み							
	4 日本の都市・居住問題	東京への一極集中/都市の地域格差/人口の集中と都市・居住問題/再開発の取り組み							
12	4章 生活文化、民族・宗教								
	1節 世界の衣食住		●	●	●	●			
	1 世界の衣食住の地域的彩	地域の文化とは何か/気候や文化にあわせた衣服の工夫/主食となる作物と各地の食文化/気候や生活様式に合わせた住居							
	2 衣食住の世界的な画一化	画一化が進む衣食住/社会・経済と衣食住							
1	3 日本の衣食住	日本の衣食住の変化							
	技能をみがく19	写真の見方(3)~生活文化~				●			
	● 第4回定期考査								
	2節 民族と宗教		●	●	●	●			
12	1 世界の民族と言語	民族とは何か/先住民と少数民族/民族と言語							
	2 世界の宗教	宗教とは何か/世界の宗教とその広がり/生活と宗教のかかわり/食生活と宗教							
	3節 現代世界の国家	国家と領域/さまざまな国境/国家と主権/国家の形態と民族/国際連合の役割	●	●	●	●			
	4節 民族・領土問題		●	●	●	●			
1	1 世界の民族・領土問題	紛争の現状と移り変わり							
	2 多様な原因をもつ民族・領土問題	言語・宗教をめぐる問題/資源と結びつく領土問題/国家をもたない民族の問題							
	3 共生に向けた取り組み	民族・領土問題の難しさ/多文化共生への取り組み/共生をめざして							
	4 日本の領土をめぐる問題と外国人との共生	日本の領域/北方領土の問題/竹島の問題/尖閣諸島/日本に住む外国人/日本に来る外国人との共生							

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点 CHECK

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
	2	第三部 現代世界の地誌的考察 2章 現代世界の諸地域 2節 東アジア 1 中国の歩みと巨大な人口 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と巨大市場 4 中国の海外進出 ● 第5回定期考査	日本に影響を与えた文化／社会主義経済から市場経済へ／多民族からなる中国／世界最大の人口 さまざまな食生活と農業／農業の変化と課題 世界の工場／経済発展と生活の変化／都市の環境問題／地域格差と人口の移動／内陸部の開発 世界に広がる中国系住民／中国の海外進出	●	●	●	●	
	3	4節 南アジア 1 南アジアの歩みと ヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの産業と変化	南アジアの成り立ち／多様な言語と宗教／ヒンドゥー教と人々の生活 自然と農業のかかわり／農業の発展と人々の生活 成長するインドの工業／急成長するICT産業／経済成長と生活の変化	●	●	●	●	

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
アイコンをクリック



※FSVIに接続してる場合のみ

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	政治・経済	単位	2 単
対象コース	情報ビジネス・美術	コース	対象クラス	2 年	5, 6 組
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)				
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2021 (第一学習社) ニューコンパスノート政治経済2021 (とうほう)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕したのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、原則として毎日課される復習プリントに取り組む事で知識を確実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査 年5回実施する。
- (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。基本的な授業態度が守られているか。
- (3) 課題 単元ごとに課す復習プリントと、長期休業中課題。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業内容から、現実問題との関わりを想像することができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を見て、そこから何を読みとることができるか。

(3) 技能・表現

用語を用いて、意図することを表現できるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/△	
1	4	第6章 現代日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。 ・選挙の意義を考え、選挙制度の問題点から改善方法を模索する。 	○	○	○	○		
		1. 政党の役割 2. 政党政治							
	5	3. 選挙制度	<ul style="list-style-type: none"> ・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。 	○	○	○	○		
		4. 現代民主政治の課題							
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会とは何か、国際政治の目的が何かなど基礎的事項を理解する。 ・国際連合が設立された経緯やその目的を国際連盟との比較を通して理解する。 	○	○	○	○		
		第7章 国際政治と日本							
	7	1. 国際社会と国際法	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、東西対立が核兵器の開発やその後の国際関係に与えている影響を学習する。また、冷戦後の世界の動きを日本との関わりにも注意して学習する。紛争やテロ行為を客観的に考察し、それらのもたらす影響を理解することで、平和な世界の尊さとその実現のための方策を思案する。 	○	○	○	○		
		2. 国際連合と地域統合							
	8	8	3. 国際政治の動向		○	○	○	○	
			4. 核兵器と軍備管理・軍備縮小						
9	9	5. 国際社会における日本		○	○	○	○		
		第2編 現代の経済							
10	10	第1章 経済社会と経済体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費のサイクルが人間社会の存立条件であることを再認識すると同時に、家計・企業・政府の三つの経済主体のそれぞれの特徴と相互関係を考察する。 ・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活を支えるフローとストックの意味を理解する。 ・資本主義経済では景気の変動が避けられないこと、またそれに伴う問題について理解する。 ・資本主義の仕組みとその特徴を理解する。その発展と変容を、矛盾を克服する試みとして登場した社会主義と比較しながら理解する。 ・市場機構の限界の内容と、政府の果たす役割の重要性を理解させる。 ・資本主義経済における会社企業の役割と、特に株式会社の仕組みについて理解する。 ・時代によって生活が変化するのに伴い、物価も変化してきたことを理解し、経済の動きを知るきっかけを掴む。実際の物価動向とその原因を考察し、まとめて発表する。 	○	○	○	○		
		1. 経済活動の基本概念							
10	10	2. 経済主体と国民所得・国富	 	○	○	○	○		
		3. 経済成長と景気変動							
10	10	4. 市場経済にいたる経済体制の変容		○	○	○	○		
		5. 市場経済の機能と限界							
10	10	6. 企業の役割		○	○	○	○		
		7. 物価の動き							

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/
3	11	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○	○	○	○	
	12	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。道徳教育の実践。	○	○	○	○	
	1	第3章 日本経済のあゆみと現状 1. 日本経済の変化	・戦前、及び戦後の経済復興から、現代に至るまでの日本経済のあゆみを、それぞれの時期の特徴を踏まえながら理解させる。また、現代の日本経済の実態と抱えている諸課題を、それまでの経緯や背景を含めて理解させると共に、これからの日本経済のあり方の方向性について考えさせる。	○	○	○	○	
	2	2. 中小企業の現状と問題	・日本経済の活動に関して企業という観点でとらえ、大企業の動きについての特徴と課題を理解する。経済基盤を支える中小企業の活動と、それに対する政策について理解する。	○	○	○	○	
	3	3. 環境をめぐる問題 4. 消費者をめぐる問題 5. 農業をめぐる問題   	・高度経済成長の影で、四大公害訴訟を代表例とする産業公害が発生していることを理解させる。公害問題が環境問題へと変化していく過程に気付かせるとともに、その問題に対して、過去から現在まで、私達や日本・世界各国はどのような取り組みをしていたのか理解させる。また人間は多くの他の生物や地球環境そのものと共存していかなければならないことを深く理解させ、道徳的な観点から環境問題を捉えさせる。道徳教育の実施。 ・消費者の権利を守るための制度や機能について理解し、企業や政府、さらには消費者の責任について考えさせる。消費者問題が多様化・複雑化している現在において、消費者一人一人がどのように行動していけばいいのか考えさせる。 ・高度経済成長以降の日本の農業政策の変遷を理解させる地お供に、その政策が取られた背景には何かがあるのか考えさせる。日本の農業を取りまく国際環境や食糧安全保障の観点から日本の農業の問題点を理解させると共に、日本の農業のあるべき姿について考えさせる。	○	○	○	○	

【SDGsの各ターゲットについて】
 ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
 高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
 アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	地理B	単位	3
対象コース	カレッジ一貫、SC、ACC、MG理系	コース	対象クラス	2年	1, 2, 4組
使用教科書	新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)				
使用副教材	22サクシード地理 (啓隆社) ゼロからわかる地理B (学研プラス)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

2年生では、具体的に地図、地理情報、地域調査、地形、気候、環境問題、農業、林業、水産業について学びます。これらの学びで、以下のことを身につけて下さい。

- (1) 地図、地理情報、地域調査の学習を通して、地図の活用法、地域や世界の諸事象を理解する力や課題の発見力を身につけて
- (2) 地形や気候の学習を通して、自然と人間の関わりを理解し、各地域の人間生活の基盤を形成しているものへの理解を深めて
- (3) 日本の自然や環境問題の学習を通して、自然災害を理解するとともに防災意識を高め、環境問題に対する関心を高めて下さ
- (4) 世界や日本の農林水産業の学習を通して、自然と農林水産業の関わりを理解するだけでなく、食糧問題にも関心を深めて

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 地理情報の活用法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学習
- (2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気大循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学習
- (3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学習
- (4) 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学習

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- (1) 地理情報の活用法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学習
- (2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気大循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学習
- (3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学習
- (4) 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学習
考えを深めるようにしましょう。

(2) 家庭

- ① 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もあります。
- ③ 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査一年5回の定期考査は、授業の学習内容から出題します。
- (2) 夏休み・冬休みの課題→予習・復習用の課題です。休み明けに、課題内容の確認テストを行います。
- (3) 地図読解・主題図の作業→地形図を用いての読図演習、統計資料を用いての分布図作成を行います。
- (4) 授業プリント・サクシード地理の点検→授業プリントやサクシード地理の記入内容を点検し、授業に対する取組度を確認し

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における発言、課題や作業への取り組みが積極的であり、地理への関心を深め授業内容を進んで理解しようとしているのかを、に、課題や作業の提出状況と内容を見ます。また、協働学習に対する取り組む姿勢を見ます。

(2) 思考・判断

授業の各分野において、単に用語を暗記するだけでなく、地図や統計資料を用いての発展的な課題に対し、解答を見つけること、

ます。また、協働学習において、意見交換を通して自分の意見を進化させているかを見ます。

(3) 技能・表現

新聞やテレビで得た情報を、地理の学習内容に結びつけることができるか。また、授業の内容理解にどのような資料を用い、どのがなどの技能を見ます。また、協働学習における意見の伝え方（表現力）も見ます。

(4) 知識・理解

授業で学んだ自然環境・産業・資源について、基本的な用語や説明内容を正しく理解し、「ある地域の特色や地域間の共通性など地理的な見方や考え方が身についているか見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか 重視する評価の

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技
1	4	はじめに 第1部 さまざまな地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第1節 地図の発達 1. 現代の地図 2. 世界観の変化と地図 第2節 地図の種類とその利用 1. 地球上の位置 2. 時差の求め方 技能1 時差の計算 3. 地球儀とさまざまな地図 第3節 地理情報の地図化 1. 地理情報とは何か 2. 一般図と主題図 3. いろいろな統計地図 技能2 統計地図の読み方と作り方 第2章 地図の活用と地域調査 第1節 地図の活用 1. 地形図の利用 2. 地形図のデジタル化 技能3 空中写真の利用 技能4 地形図の利用—地図記号	○ 地理学を学ぶ意味・地理学の構成等を学びます。 ○ リモートセンシング・GNSS・GIS等を学びます。 ○ プトレマイオスの世界地図・TOMAP等を学びます。 ○ 経度・緯度・本初子午線・地球の大きさ等を学びます。 ○ GMT・日付変更線・標準時・サマータイム等を学びます ○ 時差の計算を行います。 ○ 正角図法（メルカトル図法・等角航路等）等を学びます。 ○ 正方位図法（正距方位図法・大圏航路等）等を学びます。 ○ 正積図法（サンソン図法・モルワイデ図法等）等を学びます。 ○ 地理情報とは何かを学びます。 ○ 地理情報・一般図・主題図・地形図・統計地図等を学びます。 ○ 絶対分布図（ドットマップ・図形表現図等）を学びます。 ○ 相対分布図（階級区分図等）を学びます。 ○ カルトグラム・メッシュマップ等を学びます。 ○ 統計地図の作成を行います。 ■ 第1回定期考査	●	●	●
		第2節 身近な地域の調査 1. 調査テーマの設定 2. 課題の調査 3. 調査結果のまとめと発表 第II部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 世界の地形 1. 地形の成因 (1) 内的営力と外的営力 2. 地球規模の大地形 (1) 大地形の分布 (2) プレート運動と様々な境界 (3) 火山と地震の活動 (4) 造山帯と安定陸塊 3. 河川と海岸の小地形 (1) 小地形の形成と河川地形	○ 地形図・実測図・UTM図法・編集図等を学びます。 ○ 電子国土基本図・電子地形図25000等を学びます。 ○ 空中写真とは・空中写真の実体視等を学びます。 ○ 縮尺・三角点・水準点・図式・地図記号等について学びます。  ○ 地域調査の手順等を学びます。 ○ 野外調査・予備調査・文献調査等を学びます。 ○ 聞き取り調査・観察調査・一次資料・補充調査等を学びます。 ○ ポスター・レポート・プレゼンテーション等を学びます。 ○ 地殻変動・内的営力・外的営力・風化・浸食等を学びます。 ○ 大地形・大陸・大洋・平野・山脈等を学びます。 ○ 大陸棚・深海平原・海嶺・海溝などを学びます。 ○ ウェゲナー・大陸移動説・プレートテクトニクス等を学びます。 ○ 狭まる境界・広がる境界・ずれる境界等を学びます。 ○ 海洋プレート・大陸プレート・褶曲山脈・島弧等を学びます。 ○ サンアンドレアス断層・北アナトリア断層等を学びます。 ○ マグマ・溶岩台地・カルデラ・火山灰・火砕流等を学びます。 ○ 地熱発電・ニュージーランド・アイスランド等を学びます。 ○ 地震・活断層・海溝型地震・津波・直下型地震等を学びます。 ○ 造山帯・造山運動・新期造山帯・古期造山帯等を学びます。 ○ アルプス＝ヒマラヤ造山帯・環太平洋造山帯等を学びます。 ○ 安定陸塊・卓状地・ケスタ・構造平野等を学びます。 ○ 楕状地・準平原・デーヴィス・侵食輪廻等を学びます。 ○ 沖積平野・小地形等を学びます。 ○ V字谷・谷底平野・扇状地・水無川・天井川等を学びます。 ○ 三角州・三日月湖・自然堤防・氾濫源・縄文海進等を学びます。 ○ 台地・丘陵・河岸段丘等を学びます。 ○ 自然を撮影した写真から、地形や土地利用を読み取ります。	●	●	●

■ 第2回定期考査

技能5 写真の見方—地形—

(2) 海岸に見られる小地形

4. そのほかの特徴的な地形

- (1) 氷河地形
- (2) 乾燥地形
- (3) 石灰岩の溶食地形

技能6 地形図の利用—等高線

技能7 地形図の利用—地形断面図

技能8 地形図の利用—土地利用

第2節 世界の気候

1. 気候の成り立ち

- (1) 気温と降水
- (2) 大気大循環と風
- (3) 陸水と海洋

2. 世界の気候区分

- (1) ケッペンの気候区分

技能9 気候区分の判定

技能10 雨温図・ハイサーグラフ

技能11 写真の見方—気候

- 砂浜海岸・干潟・砂嘴・砂州・陸繋島・潟湖等を学びます。
- 離水海岸・海岸平野・海岸段丘等を学びます。
- サンゴ礁・裾礁・堡礁・環礁・地球温暖化等を学びます。
- 沈水海岸・三角江・リアス海岸・フィヨルド等を学びます。
- 山岳氷河・大陸氷河・南極大陸・グリーンランド等を学びます。
- U字谷・カール・モレーン・氷河湖等を学びます。
- 氷期・間氷期・最終氷期等を学びます。
- 砂砂漠・岩石砂漠・礫砂漠・メサ・ビュート等を学びます。
- レス・偏西風・黄砂・ホワンツォ高原等を学びます。
- 外来河川・オアシス・内陸河川・ワジ等を学びます。
- カルスト地形・秋吉台・平尾台・鍾乳洞等を学びます。
- ドリーネ・ウバーレ・ポリエ・タワーカルスト等を学びます。
- 計曲線・主曲線・補助曲線・尾根・谷等を学びます。
- 地形断面図を作成します。
- 地形図で土地利用を判別します。

- 気象・気候・気候因子・気候要素等を学びます。
- 日較差・年較差・海洋性気候・大陸性気候等を学びます。
- 気温の通減率・地形性降雨・湿潤・乾燥等を学びます。
- 熱帯収束帯・亜熱帯高圧帯・亜寒帯低圧帯等を学びます。
- 貿易風・偏西風・極偏東風・恒常風等を学びます。
- 季節風・ジェット気流・雨季・乾季等を学びます。
- 熱帯低気圧・台風・サイクロン・ハリケーン等を学びます。
- 陸水・氷河・地下水等を学びます。
- 被圧地下水・自由地下水・宙水等を学びます。
- 表層流・暖流・寒流・海洋の大循環・海岸砂漠等を学びます。
- 西岸気候・東岸気候等を学びます。
- ケッペン・植生・仮想大陸等を学びます。
- ケッペンの気候区分の気候記号・判定方法を学びます。
- 雨温図とハイサーグラフを作成して、読み方を学びます。
- 自然や人々の生活を撮影した写真から、気候を読み取ります。



年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技
2	8	(2) 熱帯の自然と生活 ① 熱帯雨林気候 ② 熱帯モンスーン気候 ③ サバナ気候 (3) 乾燥帯の自然と生活 ① 砂漠気候 ② ステップ気候 (4) 温帯の自然と生活 ① 地中海性気候 ② 温暖冬季少雨気候 ③ 温暖湿潤気候 ④ 西岸海洋性気候 (5) 亜寒帯・寒帯の自然と生活 ① 亜寒帯湿潤気候 ② 亜寒帯冬季少雨気候 ③ ツンドラ気候 ④ 氷雪気候 (6) 高地に見られる気候 3. 気候と植生・土壌 4. 変化する気候	<p>■ 第3回定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年中高温多雨・スコール・ラトソル・焼畑農業等を学びます。 ○ 年中高温・弱い乾季・モンスーン等を学びます。 ○ 雨季・乾季・サバナ・レグール・テラローシャ等を学びます。 ○ リャノ・カンポ・グランチャコ等を学びます。 ○ 年降水量250mm未満・オアシス・塩性土壌等を学びます。 ○ 年降水量250～700mm・ステップ・サヘル等を学びます。 ○ チェルノーゼム・プレーリー土・栗色土等を学びます。 ○ 夏高温乾燥・テラロッサ・硬葉樹・柑橘類等について学びます。 ○ 夏に多雨・冬に少雨・二期作・常緑広葉樹等について学びます。 ○ 四季の変化明瞭・梅雨前線・褐色森林土・混合林等を学びます。 ○ 夏冷涼で冬温暖・北大西洋海流・偏西風・ブナ等を学びます。 ○ 冬に積雪・タイガ・ポドゾル・春小麦・酪農等を学びます。 ○ 冬に少雨・シベリア高気圧・永久凍土・林業等を学びます。 ○ 地衣類・イスビット・サーミ・トナカイの遊牧等を学びます。 ○ 南極大陸・グリーンランド・大陸氷河等を学びます。 ○ 高山気候・アンデス山脈・高山都市・スラム等を学びます。 ○ アルパカ・リャマ・ポンチョ・ヤク等を学びます。 ○ 土壌・成帯土壌・間帯土壌等を学びます。 ○ 温暖化・寒冷化・小氷期・異常気象等を学びます。 ○ エルニーニョ現象・ラニーニャ現象等を学びます。 ○ 都市気候・ヒートアイランド現象等を学びます。 	●	●	●
	9	第3節 日本の自然と人々の生活 1. 日本の地形 2. 日本の気候	<ul style="list-style-type: none"> ○ 弧状列島・火山帯・火山フロント・活断層等を学びます。 ○ フォッサマグナ・糸魚川静岡構造線・中央構造線等を学びます。 	●	●	●

- 食品ロス等を学びます。
- 食料自給率の低下・食育・地産地消・食の安全等を学びます。



単位

を通し

ください。
ください。
い。
ください。

します。
します。
します。
します。

します。
します。
します。
します。まざまな

ます。

見ます。そのため

ができるのかを見

ように活用するの

をとらえる」とい

観点	CHECK
知	○△×
●	
●	
●	
●	
●	
●	
●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所にコピーして下さい

道徳

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

道徳



観点 CHECK

知 ○△×

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



●	
●	



観点 CHECK

知 ○△×

●	
●	
●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所にコピーして下さい

SDGsターゲットアイコン

道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所にコピーして下さい

SDGsターゲットアイコン

道徳教育アイコン









道徳



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理・歴史科	科目	日本史B	単位	3	単位
対象コース	情報ビジネスコース 美術コース	コース	対象クラス	2 年	5・6	組
使用教科書	詳説日本史B (山川出版社)					
使用副教材	最新 日本史図表 三訂版 (第一学習社)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組みさせるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へと変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学受験で出題されるレベルの語句にも触れていくので、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 単元毎に宿題を課すので、解答して提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何をを使って評価するのか

- ①定期考査：年5回の定期考査。
- ②宿題：単元毎に問題プリントを宿題として配布するので、正確に解答して提出すること。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出してもらいます。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

- (1) 関心・意欲・態度
歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。
- (2) 思考・判断
アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。
- (3) 技能・表現
教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。
- (4) 知識・理解
習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか			重視する評価の観点				CHECK	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり	①「日本人」の形成について、新人の日本列島への移動などを通じて把握させる。 ②温暖化がもたらした縄文文化の発展について、土器や生業の変化を通じて把握させる。 ①鉄器や農耕の伝来がもたらした大きな意義を把握させる。 ②中国の史書の基本的な理解力を養う。 ①古墳築造の意味やその変遷の理解を通じて、ヤマト政権の成立過程を把握させる。 ②史書や金石文の基本的な理解力を養う。 ③4～5世紀の中国・朝鮮の情勢変化が日本にもたらした大きな意義について把握させる。 ①ヤマト政権の豪族間の抗争のなかから、やがて蘇我氏主導の推古朝の政治が飛鳥で始まることを把握させる。 ②飛鳥文化と中国南北朝文化との関連性について理解させる。 【第1回考査】 ①大化の改新から天智・天武・持統朝にかけて、律令制が形成されていったことを理解させる。 ②律令体制の基本的しくみについて理解させる。 ①平城京遷都の歴史的意義について理解させる。 ②藤原氏の進出と聖武朝の政治について理解させる。 ①律令制度の確立と国史編纂事業が関連していること、『万葉集』編纂の意義を理解させる。 ②国家仏教の意味とその歴史的背景、仏教美術について理解させる。 ①桓武・平城・嵯峨天皇の時期の遷都・蝦夷征討・政治改革について理解させる。 ②弘仁・貞観文化について、密教と漢文学を中心に理解させる。 ①藤原北家の台頭とその背景にある外戚関係、摂関政治の誕生について理解させる。 ②10世紀初頭の唐の滅亡が、日本を含む東アジア全体に及ぼした影響について理解させる。 【第2回考査】 ①かな文字の発達が、日本の文学史上に大きな影響を与えたことを理解させる。 ②浄土教普及の背景とその文化的影響について理解させる。 ①10世紀における律令政府の地方支配の困難化と国司の権限強化について理解させる。 ②寄進地系荘園発達の背景について理解させる。 ③都から下った辺境軍事貴族が、地方の武士をまとめ武士団を形成することを理解させる。 ①摂関政治を否定して院政が成立してくることを理解させる。 ②院政の矛盾のなかから、やがて平氏政権が誕生してくることを理解させる。 ①治承・寿永の乱の過程で、律令制的な国家制度とは別に、主従制度を根幹とした東国の幕府制度が誕生してくることを理解させる。 ②鎌倉幕府の初期の職制を理解させる。 ①執権政治の確立過程と御成敗式目制定の関連性を理解させる。 ②地頭領主制の内容と荘園侵略を理解させる。 ①蒙古襲来と得宗専制政治の確立の関連性を理解させる。 ②地頭の窮乏化による幕府の基盤の動揺を理解させる。 ①鎌倉新仏教の教えと民衆への浸透の背景を理解させる。 ②武士の台頭と鎌倉期の文学・建築との関連性を理解させる。 ①鎌倉幕府の滅亡から建武の新政にいたる流れを理解させる。 【第3回考査】	●	●	●	○	
		2. 飛鳥文化の発展		●	●	●	○	
	5	3. 古墳とヤマト政権		●	●	●	○	
		第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷		●	●	●	○	
	6	2. 律令国家への道		●	●	●	○	
		3. 平城京の時代		●	●	●	○	
		4. 天平文化		●	●	●	○	
		5. 平安王朝の形成		●	●	●	○	
		第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治		●	●	●	○	
	7	2. 国風文化		●	●	●	○	
3. 地方政治の展開と武士		●	●	●	○			
第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭		●	●	●	○			
8	2. 鎌倉幕府の成立	●	●	●	○			
	3. 武士の社会	●	●	●	○			
9	4. 蒙古襲来と幕府の衰退	●	●	●	○			
	5. 鎌倉文化	●	●	●	○			
	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	●	●	●	○			
10			●	●	●	○		

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか			重視する評価の観点				CHECK	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
11		2. 幕府の衰退と庶民の台頭	②南北朝の動乱期を通じて、守護大名を基盤に室町幕府が成立していった過程を理解させる。 ③足利義満による「日本国王」化と王権簞奪構想、守護大名の圧伏と将軍権力の強化について関連させながら理解させる。	●	●	●	●	
		3. 室町文化	①足利義教以降の室町幕府権力の衰退を、各種の争乱・政変・一揆を通じて理解させる。 ②惣村の発達とそれを支えた室町期の経済を関連させて理解させる。 ③倭寇と日明貿易・日朝貿易の関連性、琉球王国・蝦夷ヶ島における豊かな交易活動を理解させる。	●	●	●	●	○
		4. 戦国大名の登場	①南北朝文化・北山文化・東山文化それぞれの文化を、五山・十刹の制、惣村の発展、禅宗と関連させて理解させる。 ②応仁の乱により都の文化が地方へ普及していったことを理解させる。	●	●	●	●	○
		第6章 幕藩体制の確立	①戦国大名が、検地・分国法などを通じて分国を一円支配していったことを理解させる。 ②戦国大名領のほか、本願寺・一向一揆による支配地域、堺・博多・京都などの自治都市があったことを理解させる。	●	●	●	●	○
		1. 織豊政権	①大航海時代と南蛮貿易、鉄砲伝来などの影響を理解させる。 ②豊臣政権による太閤検地・刀狩などの兵農分離政策を、戦国時代の土地制度・身分制度と比較しながら理解させる。	●	●	●	●	○
		2. 桃山文化	①統一政権・南蛮貿易と桃山文化の関連性を理解させる。	●	●	●	●	○
		3. 幕藩体制の成立	①徳川家康から家光にかけての3代将軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。 ②鎖国体制の成立過程を理解させる。	●	●	●	●	○
	12	4. 幕藩社会の構造	①町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。	●	●	●	●	○
		第7章 幕藩体制の	【第4回考査】	●	●	●	●	
		1. 幕政の安定	①4代将軍家綱から7代将軍家継までの時期に、武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。 ②将軍権威の維持と朝廷有和政策の関連性を理解させる。	●	●	●	●	○
		2. 経済の発展	①農業や漁業技術の発展により生産力が格段に上がり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。 ②交通・流通、株仲間などの商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。	●	●	●	●	○
3	1	3. 元禄文化	①文治主義により儒学が幕府の保護を受けつつ発展したこと、その儒学思想の展開が様々な学問の発展に影響を与えたことを理解させる。	●	●	●	●	×
	第8章 幕藩体制の動揺	②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。	●	●	●	●	×	
	1. 幕政の改革	①享保の改革から天保の改革にいたる幕政改革を理解させる。 ②幕政改革の背景にある生産力の発展、剰余の成立とその収奪、商品経済の発展、地主制の進展、百姓一揆、三大飢饉を関連させて理解させる。	●	●	●	●	×	
2	2	2. 宝暦・天明期の文化	①幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●	●	●	×
	3. 幕府の衰退と近代への道	①欧米列強の接近とそれに対する幕府の対応を理解させる。 ②天保の改革の失敗後の幕府権力の衰退について理解させる。 ③幕末の藩政改革に成功した薩長雄藩の台頭について理解させる。	●	●	●	●	×	
3	1	4. 化政文化	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。 ②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●	●	●	×
	第9章 近代国家の成立	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●	●	●	×	
	1. 開国と幕末の動乱	【第5回考査】	●	●	●	●	×	
	2	2. 立憲国家の成立と日清戦争	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。 ②政府主導により殖産興業・文明開化が推進されていった過程を理解させる。 ①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	×
	3	3. 立憲国家の成立と日清戦争		●	●	●	●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

